

=====

RIKKYO UNIVERSITY

VOLUNTEER CENTER MAIL MAGAZINE

2020.07.10

=====

こんにちは。立教大学ボランティアセンターメールマガジン7月10日号です。

春学期の授業終了日まで、あと10日と少となりました。今年度の春学期の授業は、全期間すべての開講科目がオンラインでの実施となり、学期末試験も、Web提出によるレポートになるなど、戸惑いも多いことでしょう。慣れないことも多く大変だと思いますが、今行っていることのすべてが、みなさんのこれからの力になると信じて取り組むことが、きっと良い結果をもたらすことになるのだと思います。

ボランティアセンターのスタッフも、今学期の状況下で試行錯誤しながらも、みなさんの学生生活が少しでも充実したものになることを願い、学生のみなさんの声をできるだけ集めようと尽力しています。

このようなコロナ禍においても、新入生と在校生、そして学生とボランティアセンターがしっかり繋がることを第一に考え、この時期のメールマガジンでは、学生の声や学生ボランティアサークルの情報等を多く取り上げてきました。

今後、みなさんがキャンパスに戻ってきた時に、新しいスタートをスムーズに切ることができるようにするためにも、ボランティアセンターが本来行っているイベントやプログラムの紹介等も徐々に掲載していきたいと思います。



## CONTENTS

- (1) ボランティアセンターからのお知らせ
- (2) Online Welcome Week レポート
- (3) 陸前高田サテライト・東日本大震災復興支援関連情報

---

---

## (1) ボランティアセンターからのお知らせ

---

---

### ◆Online Welcome Week が終了しました◆

6月22日(月)にスタートしたボランティアセンターと本学の学生ボランティアサークルのメンバーによるOnline Welcome Weekが終了しました。毎回2つのサークルを7回に分けて紹介してきましたが、100人を超える人たちに視聴していただいた日もあり、みなさんのボランティアサークルへの関心の高さを窺うことができました。

お昼休みの時間だけでは伝えきれなかったこと、また今回参加できなかった学生ボランティアサークルの情報、その他最新情報は、各サークルのSNSの情報をご覧ください。

お忙しい中、視聴していただいた皆さん、そして準備をしていただいたサークルの皆さん、どうもありがとうございます。お互いにとって、それぞれのボランティアサークルの活動内容や雰囲気をもっとよく知るきっかけとなり、グッと距離が縮まっていくことを祈ります。



---

---

## (2) Online Welcome Week レポート

---

---

### Online Welcome Week

ボランティアセンターでは、毎年4月に、「新入生オリエンテーション行事」の一環として、ボランティアオリエンテーションを開催し、学内のボランティア関連部局の紹介、ボランティアセンターの活用方法、そして、本学学生ボランティアサークルの紹介などを行っています。

多くの新入生が参加するこの行事が今年は中止となりましたが、新入生や学生の皆さんに、各サークルの魅力を何とかお届けしたいという思いから、今できる形として、まずはオ

オンライン会議システムを使って、ボランティアサークルを紹介することにしたのが、今回の「Online Welcome Week」です。

それぞれのサークルのフレッシュな声をお届けします。

#### ◆ ボランティアサークル座談会 Vol.3 ◆

これまで開催した座談会のうち、今回は7/2(木)・3(金)の内容の一部を紹介します。

詳しい活動内容等は、各サークルの SNS をご覧ください！

※なお、最終回7/7(火)のレポートは、次号メルマガにて行います。

#### ☆ 7/2(木) REPC & 献血運動の会 ☆

関連ワード #環境、#総合

##### ■サークルを選んだきっかけは？

###### REPC

・1年生の夏に、先輩に誘われて参加しました。もともとボランティアに興味はあったものの、なかなか踏み切れずにいましたが、キャップ回収という簡単なところからの取り組みのため参加しやすかったです。

・ボランティアオリエンテーションで知りました。自分の住んでいるマンションでもキャップ回収をしていて、大学内でも意識が広まるといいなと思い参加しました。

###### 献血運動の会

・もともと献血に興味がありました。大学に入り、自分たちでも学内で献血会を行うことができるという聞いて参加しました。

・春学期に3つのサークルに入っていましたが、まだ物足りなく感じていました。そんな時に学内献血会を見て、サークルの雰囲気の良いさと、献血への興味から参加を決めました。

##### ■「誰かの役に立ちたい」という気持ちは、小学校や中学・高校時代からありましたか？

###### REPC

・小学校から高校まで、学校内でキャップ回収や空き缶回収活動などを目にしてきたため、ボランティア活動に関わることにに対して抵抗はありませんでした。環境への取り組み、環境を守る活動から始めたいと思いました。

・小学生の時に募金活動をしていましたが、中学～高校の間は、あまり活動ができませんでした。大学生になってからは、REPC の他にも、外国籍の方を対象に日本語のボランティアも行っていきます。自分の力を社会や他の人のために役立てたいという気持ちが強くあります。

###### 献血運動の会

・献血に対して、特別な思い入れがあったわけではないのですが、ボランティアサークルというものに興味がありました。1年生の方でも、献血のイメージがあまりなくても、大丈夫です。歓迎しています。

・小学生の頃、献血に関する講座を受けたことが興味を持ったきっかけです。私自身も貧血気味なこともあり、自分の将来のためにも参加しようと思いました。献血運動の会の雰囲気や先輩の人柄に惹かれたということもあります。

※それぞれのサークルへの質問

### **REPCへ**

■現在自宅で集める「エコキャップチャレンジ企画」は、どのように活動しているのですか？

・各自自宅にて、分別・回収活動を行っています。毎週火曜日に個数を報告しあい、水曜日に結果報告と記録を行っています。今は、一人ひとりの活動になっているため、団体意識を保つことが少し大変です。

■(サークルのイベント企画や運営について) 今まで、自身の案や企画等が通ったことは？

・キャップ回収BOXの設置場所に関する案を出しました。例えば、図書館をはじめ、キャップ回収率の高い場所にBOXを設置することや、体育館は1階と2階に分けて設置することなど、他の設置場所についても、さらに皆で意見を出し合って決めることができました。

### **献血運動の会へ**

■活動する際に心掛けていることは？ また、献血をした人たちの反応は？

・献血について、分かりやすく伝える事、そして、痛そう・怖そうというイメージがあるようなので、雰囲気作りや親切に対応することを心掛けています。「意外と痛くない、早く終わる。」「丁寧に对应してくださってありがとうございます」等という好意的な反応が多い印象です。

■大変だったこと・困ったことはありますか？ またその解決策は？

・日本赤十字社の方と合同で行っているため、そんなに大変なことはなく、役割分担もきちんとされているので、負担は少ないです。強いて言うならば、参加人数を増やすための宣伝が少し大変という程度ですが、献血される方へのプレゼント(お菓子等)をアピールしながら呼び込みをするなどの工夫をしています。

■献血を実際に必要とされている方との交流はあるのですか？

・交流はなく、学生と日本赤十字社の仲介役のような感じです。日本赤十字社からの報告(実際の声や人数など)を受けることで実感を得ています。

※共通

■最後に、ひと言！サークルのアピールをどうぞ！

### **REPC**

・回収BOXを目にして、興味が沸いたら、またSNSなどでも情報発信をしていますので、気軽に声をかけていただければうれしいです。

・個数が目に見えて、達成感を感じることが出来ます。いろいろな方とその達成感を共有したいです。SNSでも反応していただけるとうれしいです。

## **献血運動の会**

・大変そうに見えるかもしれませんが、週に1回のミーティング、宣伝物を作るという内容なので、気負わずに来てください。10月に献血会を予定していますので、見学から始めていただければうれしいです。

・献血に関わることのできる大きな活動ですが、役割分担もしていて、一人ひとりの負担は少なく雰囲気も良いです。新座も10月に献血会を予定していますので、ぜひ来てほしいです。

## ☆ 7/3(金) PRC & アジア寺子屋 ☆

関連ワード #国際

### ■サークルを選んだきっかけは？

#### PRC

・大学生のうちにはしかできないことをしたいと思いました。ボランティアもその1つで、海外旅行が好きだということもあり、どうせなら海外でボランティア活動をしたいと思いました。PRCは、旅費も安く雰囲気も良かったので選びました。

・ボランティアがしたい、また、大学生のうちにはしかできないことをしたいと思っていた時に、PRCの先輩に出会いました。勉強が忙しい時は次の夏に行く等、自分のペースで活動できるところがいいと思いました。

・海外に行きたいと思いが強かったです。1度きりの活動になるサークルもありますが、PRCは1つの村に対して継続的に関係を持つことができる部分が魅力的だと思いました。

#### アジア寺子屋

・新歓の時は、違うサークルを考えていましたが、たまたまアジア寺子屋のサークルのチラシをもらって、入ることにしました。その時は、「なぜフィリピン？」と思いました。ボランティアオリエンテーションに参加した時に、ボランティアをしに行くというよりも、行った先の人たちと繋がることが目的だというお話を伺い、そのことに惹かれて入りました。

・フィリピンに行きたい、ボランティアをしたい、ということではなく、はじめは、「海外に行きたい。」という気持ちだけでした。しかし、実際にフィリピンに行ってみると、「ここが自分の居場所だ！」と感じ、来てよかったと心から思える場所になりました。

### ■フィリピンの魅力は？ 現地に行って気付いたこと（ギャップなど）は？

#### PRC

・味付けが日本人好みで、ご飯もスイーツもおいしく、いつも太って帰ってきてしまいます。人と人との繋がりが温かく、家族以外の人にも優しいです。日本に帰って来てからも、SNSで繋がっています。

・村が小さい分、子どもたちと触れ合っただけで過ごす時間が多く、日本ではなかなかできない事なので楽しかったです。子どもたちが可愛く、ホストファミリーの人柄の良さ、温かさを感

じました。日本だと人間関係の希薄さが目立ちますが、フィリピンはコミュニティーが密で、どこに行ってもすぐに声をかけられるので、生活していて寂しくなかったです。

### アジア寺子屋

・自然が豊かで人も穏やか、それでいて活発なところが魅力です。食べ物もおいしいです。アジア寺子屋は、同じ村に行きますが、1年目に行った時と2年目に行った時の印象が変わります。2年目に行った時は、家族のように迎えて入れ、帰る時も息子のように接してくれるので、泣いてしまいました。

・家と家の距離が近いので、人が自然と集まります。広場でも、子どもから大人まで、のんびりお喋りをしている時間がいいなと思いました。早起きでもあるけれどルーズな部分もあり、サークルのメンバーでは「フィリピンタイム」と呼んでいます。自分のペースで動いている部分も魅力的です。果物も豊富ですが、スナック菓子やコーラも食べていて、その共存も面白いと感じました。

### ■まとまった期間、フィリピンに行くことに対する家族や周りの反応は？

#### PRC

・長期で行くので、家族は心配もしますが、この活動が何十年も続いている活動であることを説明し、もし何かあっても連絡が取れる手段が整っているということで安心してもらえました。

・何かあればすぐに連絡が取れるシステムがあるので、そこは安心できました。自分の携帯も持っては行きますが、緊急以外は使わないというルールにしたことで、携帯に追われない時間がとても自由で良かったです。

・周りからは、環境面の違いを心配されましたが、設備も整っていて飲み水もあります。事前に説明もしっかりしてくれるので、安心できました。

### アジア寺子屋

・(自分は男性なので、) 家族からは、特に心配はされませんでした。

### ※それぞれのサークルへの質問

#### PRCへ

### ■海と山のキャンプには、両方に行くことができるのですか？

・自分の行きたい方に行くことができます。事前に説明を聞いて、春は山、夏は海など、選んで参加することができます。

### ■村の人との関係性を築くために心がけていることは何ですか？

・村の方の協力で成り立っているので、言動などに注意しています。例えば、「ヤバイ」という言葉は、フィリピンの人にとってはあまりいい響きではないなど、事前学習で、タブーなことや歴史も学んでから行きます。

・現地生活では、ホームステイ先で積極的に家族と会話したり手伝いをするようにしています。海側はタガログ語が中心なので、覚えて使ってみると関係性が深まります。日本に帰っ

てきても SNS で繋がり、第二の家族のように感じています。

### アジア寺子屋へ

#### ■ホームステイで過ごす魅力は？ また、現地の人のどんな「豊かさ」に感動しましたか？

・アジア寺子屋では、基本的に学生 1 人が 3 年間続けて 1 つの家（同じ家族のところ）にステイしますが、だんだん客人というよりも、その家の子どものように扱われます。早朝から 2 時間くらいの芝刈りをして、その後一緒にご飯を食べているうちに、本当の家族のようになっていきます。純粹で、物事もはっきり言うけれどルーズなところもあるという点が、日本人と少し違って面白いなと感じるところです。

・私の場合は、現地に行ってみると、家同士の関係も密な親戚が周りに多かったため、いろいろな親戚の家に遊びに行き、たくさんの家族にお世話になりました。一つの家族と過ごす時間と同様に、村の中で過ごす時間もとても魅力的でした。また、人が集まればダンスやお喋りをして、みんながポジティブで楽しく生きています。過去にお世話になった先輩の事も覚えてくれていて、「あの子は元気？」と、気にかけてくれる事もうれしかったです。

※共通

#### ■最後に、ひと言！サークルのアピールをどうぞ！

### PRC

・Instagram, Twitter で「PRC」を検索してチェックしてください。今年の夏はキャンプに行けなくなってしまいましたが、ZOOM で定期的にミーティングを行っています。様々なゲーム企画しているので、参加してほしいです。また、1 年生に 5 名入っていただいたので、さらに友達を作りたい人は連絡してほしいです。

### アジア寺子屋

・Instagram, Twitter, Facebook で、「ajitera10」を検索して連絡してください。また、メンバーが現在 13 名中、男子 1 名なので、男子学生にも入っていただきたいです。何よりも、フィリピンに行ってみてほしいです。

=====

### **(3) 陸前高田サテライト・東日本大震災復興支援関連情報**

=====

みなさん、こんにちは！陸前高田サテライト事務局です。

立教大学では 2011 年の東日本大震災以降、岩手県陸前高田市を中心に東北各地で復興支援活動や交流活動を継続しています。現在は、陸前高田市ご協力のもと、岩手大学の方々と共に同市の地域課題解決に貢献できるようなプログラムにも取り組んでいます。

陸前高田市と立教大学の歩みを少しずつ振り返りながら、学生の皆さんが陸前高田を訪れることが出来るプログラムやスタッフによる耳ヨリ情報を掲載していきます！

## ★立教大学と陸前高田～R の物語 vol.7 立教野球教室@陸前高田の開始【前編】

2012年7月8日、陸前高田市内の小学生向けに体育会野球部員が野球教室を開催しました。現地では児童・生徒に対する支援ニーズが顕在化しつつあり、陸前高田市では野球とバレーボールが盛んであるという情報もいただいていたため、まずは野球教室を開催することになりました。

野球部長と21名の部員は、大学で事前学習を行い、教室前日に陸前高田入りしました。現地では、津波で大きな被害を受けた市役所の建物や、浜辺沿いにあった7万7千本の高田松原のうち津波に耐えて1本だけが残った「奇跡の一本松」、そして、完成直後に津波で全壊してしまった野球場などを訪れて陸前高田の被災状況を学んだのち、翌日の野球教室に臨みました。

野球教室終了後、参加部員による振り返り文集を作成し、現地で協力してくださった方々や参加してくれた子ども達にお送りしました。今回と次回の「Rの物語」では、当時から現在に至るまで野球部長として野球教室開催に尽力されている文学部の前田一男先生が2012年度の振り返り文集に寄稿された文章をご紹介します。

### 前田一男先生（野球部長、文学部教育学科）

#### 「野球を通じて未来へー陸前高田市における野球部『野球教室』ー」（前編）

2012年7月7日から8日にかけて、陸前高田市において野球教室を開催させていただいた。5月、陸前高田市と立教大学とが連携及び交流に関する協定を締結し、復興支援・地域活性化など多様な分野で連携協力する、その一環としての野球部の活動であった。

本誌にまとめられたプログラムでもわかるように、6月に陸前高田市が被災した津波被害の実際について事前学習をし、それから現地入りして1泊2日の野球教室の開催という流れであった。部長として事前学習で話したのは、今回の野球教室は、ボランティアではなく、野球部員の学びの場ととらえてほしい、ということであった。

何ができるのかとあって、単発的な野球教室の開催は、あまりにも微力に思える。微力であるのなら何も行動を起こさなくてもよいのかといえば、そう思った時点ですべてが終わってしまう。自分たちが何かをしても意味があるのだろうか、いや何か出来るならどんな些細なことでも行動したい。部員のレポートにあるように、参加することの意義について積極的に迷うことから、この活動は始まっている。

7日午後、陸前高田市に到着した。バスの中からの市内見学の予定だったが、市役所前で降りてもらうことにした。亡くなられた方々への慰霊をしたかったからであり、大波が容赦なくすべてをさらっていった地面の感覚を肌身に刻んでおきたかったからである。事前学習で見た映像が重なってくるようで、何とも表現できない重い感触が身体を襲ってきた。記録用にとビデオにもデジタルカメラにもその様子を撮ろうとはしたが、しかしそこには到底収めきれない被写体があった。寡黙にならざるを得なかった部員たちは、自分の記憶の中に、その情景を焼き付けているようだった。部員たちは、今ここに立つことが許されている自分の存在に戸惑ったのではないかと思う。

（後編に続く）





被災した市役所前



被災した市民球場。東日本大震災直前に完成したものの使用される前に津波で全壊してしまいました。

\*お問合せ 立教大学陸前高田サテライト事務局 [rrs@rikkyo.ac.jp](mailto:rrs@rikkyo.ac.jp)

\*陸前高田サテライトの取り組みを発信中

公式 Instagram (@rikkyo\_rrs) [https://www.instagram.com/rikkyo\\_rrs/](https://www.instagram.com/rikkyo_rrs/)

(編集：ボランティアコーディネーター／広瀬)

---

## 立教大学ボランティアセンター

---

### ◎池袋キャンパス

場所：5号館1階

開室時間：月～金 9：00～17：00

土曜日 9：00～12：30

### ◎新座キャンパス

場所：7号館2階

開室時間：月～金 9：00～17：00

土曜日 9：00～12：30

※新型コロナウイルス感染拡大のため6月1日以降は短縮開室しております。

月～金 10:30～15:30、土曜日 10:30～12:30

但し、両キャンパスとも原則として入構制限となっています。

### ◎ホームページ

[http://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/support/extracurricular\\_activities/volunteer.html](http://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/support/extracurricular_activities/volunteer.html)

### ◎メールアドレス

[volunteer@rikkyo.ac.jp](mailto:volunteer@rikkyo.ac.jp)

### ◎Facebook

[https://www.facebook.com/立教大学ボランティアセンター-537537806439867/?ref=aymt\\_homepage\\_panel](https://www.facebook.com/立教大学ボランティアセンター-537537806439867/?ref=aymt_homepage_panel)

### ◎TwitterID

@rikkyo\_volucen

[http://twitter.com/rikkyo\\_volucen/](http://twitter.com/rikkyo_volucen/)

### ◎Instagram

[https://www.instagram.com/rikkyo\\_vc/?hl=ja](https://www.instagram.com/rikkyo_vc/?hl=ja)

### ◎ボランティアナビ

<https://spirit.rikkyo.ac.jp/volunteer/SitePages/navi.aspx>

配信停止を希望の場合は以下の Google Form を送信してください。

<https://forms.gle/xFtZVvd94Je1nJwm7>

---

(C)2019 RVC all rights reserved.

---